

送配電等業務指針第33条第1項第2号アからエまでの要件適否の状況に係る詳細について(平成29年3月末現在)

ア. 地域間連系線の利用実績
空容量/運用容量が5%以下の時間数比率

連系線	2016/4~2017/3		判定
	順方向	逆方向	
北海道本州間連系設備	0%	74%	○
東北東京間連系線	0%	0%	
東京中部間連系設備	7%	38%	○
中部関西間連系線	0%	1%	
北陸関西間連系線	0%	0%	
関西中国間連系線	0%	0%	
中国四国間連系線	0%	5%	
中国九州間連系線	0%	8%	
中部北陸間連系設備	14%	10%	※
関西四国間連系設備	0%	1%	※
中部北陸間連系設備 北陸関西間連系線迂回	0%	0%	
関西四国間連系設備 中国四国間連系線迂回	0%	5%	

イ. 地域間連系線の年間計画
空容量/運用容量が5%以下の時間数比率

連系線	2017/3~2018/3		判定
	順方向	逆方向	
北海道本州間連系設備	2%	85%	○
東北東京間連系線	26%	0%	○
東京中部間連系設備	1%	86%	○
中部関西間連系線	0%	1%	
北陸関西間連系線	0%	0%	
関西中国間連系線	0%	0%	
中国四国間連系線	0%	0%	
中国九州間連系線	0%	97%	○
中部北陸間連系設備	4%	2%	
関西四国間連系設備	2%	1%	
中部北陸間連系設備 北陸関西間連系線迂回	0%	0%	
関西四国間連系設備 中国四国間連系線迂回	0%	0%	

判定 ○ :運用容量に対する空容量が5%以下の時間数比率が、過去1年間で20%以上となった場合
※他の連系線への迂回が可能である潮流については、他の連系線に迂回したのとして取り扱い総合的に判断する

ウ. 地域間連系線の長期計画
空容量/運用容量(「電力取引市場の環境整備のためのマージン」設定前)

連系線	時間帯	方向	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	判定
北海道本州間連系設備	ピーク	順方向	49%	49%	47%	47%	47%	47%	47%	44%	
		逆方向	34%	34%	36%	36%	36%	36%	36%	39%	
東北東京間連系線	ピーク	順方向	0%	1%	4%	5%	0%	0%	0%	86%	○
		逆方向	738%	724%	698%	680%	829%	816%	816%	38%	
東京中部間連系設備	ピーク	順方向	69%	70%	83%	80%	80%	80%	80%	64%	
		逆方向	1%	0%	43%	45%	45%	45%	45%	61%	
中部関西間連系線	ピーク	順方向	114%	146%	146%	142%	142%	142%	142%	80%	
		逆方向	61%	38%	39%	41%	41%	41%	41%	85%	
北陸関西間連系線	ピーク	順方向	76%	99%	99%	99%	99%	99%	101%	96%	
		逆方向	126%	95%	95%	95%	95%	95%	93%	100%	
関西中国間連系線	ピーク	順方向	148%	136%	147%	147%	147%	147%	147%	88%	
		逆方向	33%	34%	27%	27%	26%	26%	23%	64%	
中国四国間連系線	ピーク	順方向	22%	22%	22%	22%	22%	22%	22%	23%	
		逆方向	100%	100%	101%	101%	101%	101%	101%	100%	
中国九州間連系線	ピーク	順方向	628%	564%	635%	635%	635%	635%	635%	100%	
		逆方向	1%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	○
中部北陸間連系設備	ピーク	順方向	188%	192%	192%	192%	192%	192%	192%	100%	
		逆方向	12%	8%	8%	8%	8%	8%	8%	100%	※
関西四国間連系設備	ピーク	順方向	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	0%	※
		逆方向	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	100%	※
中部北陸間連系設備 北陸関西間連系線迂回	ピーク	順方向	93%	63%	63%	63%	63%	63%	60%	46%	
		逆方向	61%	83%	83%	83%	83%	83%	85%	96%	
関西四国間連系設備 中国四国間連系線迂回	ピーク	順方向	53%	53%	53%	53%	53%	53%	53%	10%	
		逆方向	49%	49%	49%	49%	49%	49%	49%	100%	

□:運用容量に対する空容量が10%以下の年

判定 ○ :運用容量に対する空容量が10%以下の年が3年以上となった場合
※他の連系線への迂回が可能である潮流については、他の連系線に迂回したのとして取り扱い総合的に判断する

エ. 市場取引状況
市場分断処理の時間数比率(2016/4~2017/3)

連系線	北海道本州間連系線		東北東京間連系線		東京中部間連系線		中部関西間連系線		北陸関西間連系線		関西中国間連系線	
	順方向	逆方向	順方向	逆方向	順方向	逆方向	順方向	逆方向	順方向	逆方向	順方向	逆方向
分断比率	0.1%	71.0%	1.0%	0.0%	5.8%	51.0%	0.1%	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
判定		○				○						

連系線	中国四国間連系線		中国九州間連系線		中部北陸間連系線		関西四国間連系線	
	順方向	逆方向	順方向	逆方向	順方向	逆方向	順方向	逆方向
分断比率	0.0%	0.0%	0.0%	6.9%	0.1%	0.5%	0.0%	0.1%
判定								

判定 ○ :過去1年間に市場分断処理を行った商品の数が、過去1年間の総商品数の20%以上